

池田町観光むらづくり計画  
第1回 策定懇話会 検討資料

令和元年9月9日

池田町役場農村政策課

# 池田町の観光むらづくり計画 策定の主旨

## 町内の状況

池田町の観光事業は1970年代から本格的にスタートし、1990年代に、現在の池田屋が指定管理で運営している施設の運営が開始された。

2000～2010年にかけて、農業や環境に関する取組が始まり、町民をまきこんだ町づくりが加速化し、これらの取り組みを知った人からの評価が高まった。

2010年以降は、これらを町民、町外の方に知ってもらい、かつ農産物の販売だけでない経済効果を生み出すための様々な取り組みが始まった。こってコテ事業や、観光協会事業が主なもの。

2015年からは、山の保全と、出荷時を迎えた杉の多方面からの流通を考えた「木望のまちプロジェクト」を開始。「おもちゃハウス」「TPA」のオープンにより、観光客が純増、さらに、観光客層の変化が見られた。また、このTPAオープンによるメディアへの露出が増えたことにより、移住者の増も見られた。

今後、R417をはじめとする交通状況の変化、日本の農山村に対する世間の目の変化、インバウンド、IoT等で状況が目まぐるしく変化することが予想される。

## 国内の状況

高度経済成長期以降、日本人は国内だけでなく海外へも旅行をするようになり、観光業が発展した。団体旅行や、旅行会社窓口を通じての旅行が多かったが、ここ数年は、インターネットによる予約や情報収集が加速し、個人旅行がどんどん増えている。また、近年は、日本の物価安から外国人観光客も増加。有名観光地ではオーバーツーリズムも問題となっている。

東京五輪に合わせ、国でも日本全体のインバウンド受入の底上げを実施中で、地方創生にもインバウンドによる外貨獲得の波が来ている。逆に、2020以降については非常に不透明な状況である。

## 県の状況

有名観光地は東尋坊と永平寺しかなかったが、5年ほど前から恐竜コンテンツが加わった。北陸新幹線開業に向け、5年ほど前から、県も積極営業を開始。また、それに向け、今年から国及びJRも、多額の予算投入が始まっている。



目まぐるしく変化する町内外の状況に対応しなくてはならない。

観光のプレイヤーは「町民」。町民が主役になれないか。

インバウンドの受け入れはどうするのか。

観光入込客数だけが成果なのか。関係人口の増加だけが成果なのか。

池田町のまちづくり全体に、果たして観光が必要なのか。まちづくりのために観光をどうしたらいいのか。

# 池田町の観光の現状分析 ①

## 歴史的背景 その1

年月	池田町の出来事	池田町入込客数	福井県の出来事	福井県入込客数
1977.4	冠山青少年旅行村 開設			
1982.4	高齢者センター「冠」完成			
1990.4	かずら橋、水車小屋 完成			
1990.7	溪流温泉冠荘 名称変更			
1990.11	ふるさとふれあい道場 オープン			
1992.4	木の里工房 営業開始			
1993.5	ふれあい物産館			
1995.7	能面美術館 オープン			
1995.9	第1回そばフェスタ 開催			
1995.12	新保ファミリースキー場 オープン			
1996.8	民俗資料館 オープン			
1998.10	第1回農林ピック 開催			
1999.11	こっぽい屋 オープン			
2000		131,191	県立恐竜博物館オープン	
2002.10	食Uターン事業開始	134,855		
2004.7	福井豪雨	101,839	福井豪雨	8,793,000
2005.10		106,917	第20回国民文化祭	9,302,000
2006		107,124		9,851,000
2007	日本観光ポスターコンクール金賞受賞	99,420		9,934,000

## 池田町の観光の現状分析 ②

### 歴史的背景 その2

年月	出来事	池田町入込客数	福井県の出来事	福井県入込客数
2008		120,282		10,259,000
2009.6 2009.9	おこもじ屋 開設 テストショップ「ゆいマート」開店	123,456	第60回全国植樹祭	10,438,000
2010.10	第1回食の萬屋祭(食の文化祭) 開催	147,997		10,626,000
2011.4	(株)まちUPいけだ 設立 「ゆいマート」が「こってコテいけだ」に名称変更	140,199		9,800,000
2012.5 2012.7	いけだ農村観光協会 設立 こってコテいけだ リニューアルオープン	129,157		9,774,000
2013		126,611		10,344,000
2014.3	農村観光中期実行計画 策定	118,041		11,318,000
2015.4	おもちゃハウス こどもと木 オープン	139,199		12,709,000
2016.4 2016.6	ツリーピクニックアドベンチャーいけだ オープン 農村de合宿キャンプセンター オープン 農村体験プログラム開始	169,470		16,522,000
2017		152,492		16,053,000
2018.2 2018.3 2018.10	わくらボ オープン 池田町立クライミングセンター オープン 第73回国民体育大会	158,624	第73回国民体育大会	16,969,000

## 農村観光中期実行計画（2014年3月策定）

### 基本理念「あたりまえの暮らしが舞台」

学べるトラベル	遊べるトラベル	食べれるトラベル
農村文化や祭り、農林作業、伝統芸能等の体験	レジャー事業や、昭和の遊び	伝統料理や行事料理の提供、新規メニュー開発
<b>わんぱく冒険の森事業(TPA)</b> 森のインストラクター育成 村の匠指定 <b>農村体験プログラム</b> ワーホリ、ワークステイプログラム開発と招致 バイオマス等自給エネルギー施設の導入 <b>修学旅行プログラムの開発と招致</b>	<b>TPAジップライン</b> 遊びインストラクター育成 <b>ウッドスタート事業</b> 春秋田んぼランド、大雪体感ツアー アドベンチャーボート充実 <b>スポーツクライミングの普及と施設整備</b> 登山、ウォーキングコースの商品化 リピーター向けポイントカード導入 足羽川流域交流観光推進	<b>長屋式加工場建設(食ラボ)</b> <b>おこもじ屋</b> <b>大豆プロジェクト</b> ジビエ商品開発 古民家利活用のレストラン開設 企業版CSAの仕組みと開発 池田町「食創作交流会議」(仮)の発足

#### 【PR】

- 町内情報の共有化を発信を行う「情報プラットフォーム会議」の設置
- 「観光商品デザイン会議」の設置
- **メディアへの情報発信**
- **ホームページリニューアルによる発信力向上**
- 観光サイン再構築
- 池田町への理解・感動を生み出すブランドコミュニケーションプランを策定

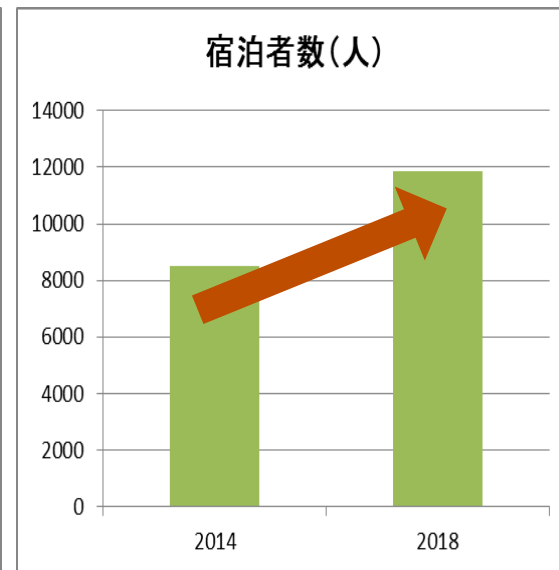
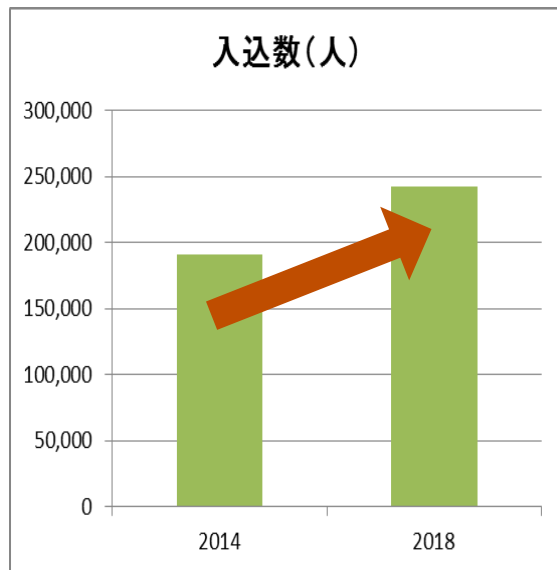
**赤字が達成したもの**

#### この「農村観光中期実行計画」に 欠けているもの

観光振興によって目指す姿と目標  
 プレイヤーの存在  
 池田町のほかの計画への影響  
 そもそも、この計画の存在感

**達成度の低さにつながった??**

## 中期実行計画 計画期間中の成果



入込数は約1.3倍、宿泊者数は約1.4倍、県外からの観光客が約2.9倍となり、計画期間中に一定の成果があった。特に、県外客の伸びが大きく、広告やメディアへのPRがうまくいっているのではないかと思われる「観光地としての池田町」の知名度があがったように見える一方、個別のデータでは、2018年は、TPAだけで県外客が32000人以上おり、県外客のほとんどはTPAのお客様である。

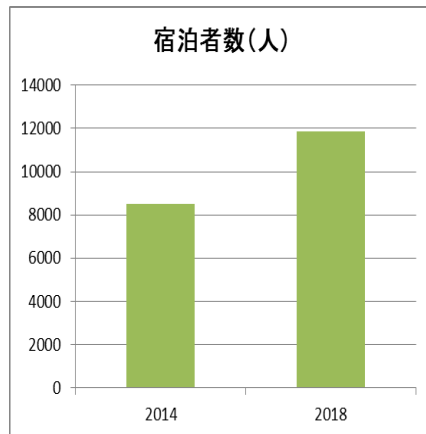
計画で、達成した赤字分はTPAに係る部分が多く、他の部分についても達成していれば、さらに伸びた可能性もある。

⇒⇒計画は一定の成果をみせた、ともいえる。

## 宿泊施設

宿泊施設は以下のとおりで、いずれの施設もリピーターが多い状況で新規顧客獲得を目指したいものの、長期休暇等の繁忙期は空き部屋がない状況であり、平日や冬季の集客が課題である。

名称	種別	キャパ	形式
溪流温泉 冠荘	公設旅館	60	2～4人部屋 風呂トイレ共同
農村de合宿キャンプセンター	公設簡易宿所	80	4～12人部屋 風呂トイレ共同
ファームハウス・コムニタ	民営旅館	20	2人～4人部屋 風呂トイレ全室あり・ミニキッチン付きあり
べにや	民営旅館	20	4人部屋 風呂トイレ共同
ツリーピクニックアドベンチャーいけだ (コテージ・樹上テント・キャビン)	公設簡易宿所	60	コテージ定員5人 風呂トイレ・ミニキッチンあり キャビン定員12人 トイレあり 樹上テント定員4人 風呂なし、トイレ共同
ゲストハウスベコ亭	民泊	8	男女別4人相部屋 風呂なし、トイレ共同



部屋にユニットバスとトイレがついているタイプの宿泊を希望される方や、一人旅の方、また遠方からの方で福井県近郊を広く回る方は、福井市のビジネスホテル(素泊まり又は朝食のみ)や、あわら温泉、越前町の民宿を利用される方が多い。

繁忙期は、池田町内に宿泊施設がないということで、福井市に宿泊客が流れることが多く、また、キャンプ場がなくなったことから、人気が出てきているアウトドア需要に対応できていない。

町内での宿泊客は、県内容・県外客ともに年々増加している。

## 池田町の観光の現状分析 ⑥

### 飲食施設・土産物販売施設

	ジャンル	定休日	営業時間
wacca	カフェ	日・月(他不定休あり)	11:00-16:00
喫茶香	喫茶・軽食・ジビエ	不定休	9:30-19:00
おもちの母屋	もちカフェ	月曜	11:00-16:00
こってコテいけだ	定食・カフェ	水曜(夏季不定休)	11:00-14:00
そば処一福	そば	火曜	11:00-17:00
水車	そば	水曜	11:30-14:30
しらほ食堂	定食	水曜	12:30-13:30 17:00-20:00
長尾と珈琲	カフェ・軽食	月～金(変則)	10:00-18:00(変則あり)
酔虎 夢	ジビエ	月～金(予約あれば営業)	11:00-15:00
ふるさとふれあい道場	そば	火曜	10:00-17:00
ぬくもり茶屋	きび団子	月～金(冬季休業)	10:00-16:30
カフェピクニック	軽食	火曜(冬季休業)	9:00-17:00
天池の宿	山菜・ジビエ・川魚	冬季	8:00-17:00

町内の飲食関係施設(予約不要なもの)は上記のとおりで、火曜・水曜は昼食をとれる店が少ない。夜間はほとんどない。夜間の飲食店事情を知らない観光客が、素泊まりで町内に宿泊し、夕食は地元飲食店で地元のを食べようとしたが食べるものがないという話も聞かれる。

麺類はそばがほとんどで、一部店舗でうどんの提供がある。ジビエや山菜、川魚の需要もあるが、それらを提供している店は少ない。

土産物については、主にこってコテいけだで販売。冠荘、TPA内でも土産物を販売している。野菜については、こってコテいけだでのみの販売となっている。



## 特産品

先人から受け継がれた自然や田畑、寒暖差が大きく湿度が高いという恵まれた環境から、農作物の生産に適しており、突出した特産品はないものの、米をはじめとし、様々な野菜が作られています。各家庭で食べきれない野菜を出荷し福井市の量販店のテナントで販売する「こっぽい屋」事業、それを支える「ゆうきげんき正直農業」により、池田町産農産物のブランド化に一定の成果がありました。また漬物や発酵食品の開発製造拠点「おこもじ屋」や農産物の加工を研究開発する「食LABO」で、農産物に付加価値をつけて販売することも行っています。

しかしながら、世界的にオーガニック認証やGAP等で品質保証と生産環境への関心と期待が高まる中、町独自基準の「ゆうきげんき正直農業」「生命にやさしい米づくり運動」は、再構築の時期を迎えていると言えます。

また、町土面積の9割以上を山林が占め、木を加工し、特産化を実施しています。間伐材や雑木は、木工品等に加工し販売しています。一部の池田町産スギは高級材木として出荷されていますが、ほとんどの木材において伐採から出荷までの工程で採算がとれることがなく、切り時を迎えているにも関わらず出荷できていない状況にあります。

### 池田町産米

池田町で作られる米のほとんどはコシヒカリで、その6割は特別栽培米となっています。農薬や肥料の使用頻度により「極」「匠」「真」「舞」の4ランクに分けられており、好評を得ています。

### 野菜

恵まれた環境から野菜の味が濃く、また「ゆうきげんき正直農業」により、池田町産は安心安全であるというブランディングができています。「こっぽい屋」では年間150種の野菜が販売されます。

### 池田杉

冬の積雪に耐える池田杉は、木目が細かく、良質は木材として有名です。

一部の飲食店・宿泊施設では、シシヤクマ、シカといったジビエや、タラの芽やコシアブラ、ワラビやゼンマイといった木の芽や山菜を提供しており、しかも近年その需要も高まっています。こうした自然の恵みともいえる食材の確保も今後の課題となっています。

## 地方創生総合戦略による人口目標

2040年⇒ 2200人    2060年⇒2000人

### 2000人の理由・・・

- 将来の主人公にとって意味のある目標設定 「子どもたちが元気で賑わう地域や学校づくり」を目指し、1学年20人を目標としたため
- 社会インフラの維持、行政維持のため

## 目標を達成するためのKPI

### 転出数

2010～2014年の年平均98人→段階的に年83人まで抑制

### 転入数

2010～2014年の年平均48人→段階的に年73人まで増加

(1集落に、4年に1回4人家族が転入する計算)

### 出生率

出生率1.13⇒段階的に1.61に上昇

未婚率改善にも努める

# 池田町はどんな未来を目指すのか（若者と女性の定住について）

町政問題懇話会 若者と女性の暮らし環境充実部会報告書(H28. 3)より

20～30代は、池田町に戻りたい意思はあるが、現実的に難しいと考えてる。(町民アンケートより)

- Uターン・転入の要素  
田舎らしい自然や良好な人間関係 → 残しておくべき要素
- 転出を決める要素  
進学、就職、結婚、住居や仕事の都合、買い物の不便さ → 改善すべき要素

住む場所を決定するのは女性が多い。  
女性は20代よりも30代のほうが、Uターン願望が強い。

→女性に対し、通勤、住居、教育、子育て、医療、娯楽についての情報、  
つまり「暮らしていけるという情報」の見える化が必要

池田町の観光に求められるものとは？

田舎らしい自然や良好な人間関係を残すための施策  
女性が暮らしていきたいくなる情報の発信

# 池田町はどんな未来を目指すのか(食と環境と農について)

町政問題懇話会 食と農と環境のまちづくり戦略部会報告書(H28. 5)より

池田町の農業は

- 地域資源循環型農業(「ゆうきげんき」「食Uターン」など)の外部評価が高い
- 豊かな自然環境や農村風景を守ることに繋がっており、観光客や移住者への魅力になっている
- 農産物に対する外部の評価が高く、こっぽい屋の年商は1億円を超える。

残しておくべき要素



- 町内での「食」に関する計画は策定されておらず、町ぐるみの広がりが無い。
- 農や環境に関する取組が、町民からの評価が外部評価ほど高くなく、生活を営む上での安心感につながっていない。つまり、取り組みが地域経済(しごと・経済・まちづくり)の成果とイコールになっていない。
- 関わる人が50~60代以上で、子育て世代の主婦層とのつながりが低下している。

改善すべき要素

池田町の観光に求められるものとは？

現在の農業を守りながら景観を守ること  
若い世代を含めた取り組みを推進し、食の自己評価を上げること  
農や環境の取り組みに経済効果をもたらす施策

# 池田町はどんな未来を目指すのか(地域と集落のあり方について)

町政問題懇話会 地域と集落自治機能のあり方検討部会報告書(H28. 7)より

## 池田町の集落の現状

- 家ごとのライフスタイルや家族構成の多様性、少子高齢化、勤務形態の変化により、家単位の協働活動は難しくなっている。
- 集落で共同作業しなくてはならないことが減っているがゆえ、集落自治に対する意識が薄くなっている。
- 人口が減ってなくなるのは、町より集落が先であることへの危機感が薄い。



世帯主に限らず、若者や女性に活動への参加を促し、かつ任せる仕掛け

## 新たな集落運営の提案

- 配食サービス、集落カフェ、雪下ろしサービス、シェアライドなど、集落福祉活動
- 集落福祉活動を行うための資金確保(農家レストラン、農家民泊、野菜や山菜の出荷)
- 集落や地区単位での行政事務受託(行政施設の有償管理受託、空き家を活用した町営住宅の管理運営等)

池田町の観光に求められるものとは？

若い世代や女性を含めた取り組みを推進すること  
自力で稼ぎ、行政がなくなっても機能する集落や地区を目指す状態を作る事

## 池田町の観光振興に求められるものとは？(まとめ)

- 田舎らしい自然や良好な人間関係を残すための施策の実施
- 現在の農業を守りながら景観を守ること
- 農や環境の取り組みに経済効果をもたらす施策の実施
- 食の自己評価を上げること
- 若い世代を含めた取り組みを推進
- 女性が暮らしていきたくなる情報の発信
- 集落や地区で、若い世代や女性を含めた取り組みを推進すること
- 自力で稼ぎ、行政がなくなっても機能する集落や地区を目指す状態を作る事

